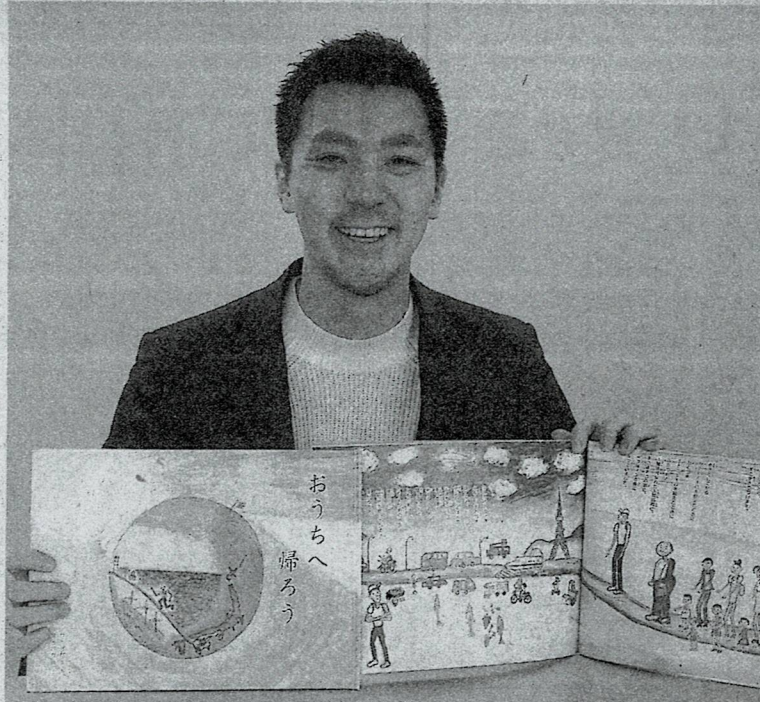


# 真つすぐに歩んだ 父の生き方伝える



完成間近の絵本「おうちへ帰ろう」を手に、河野兵市さんへの思いを語る長男の遼兵さん＝松山市

## 冒険家・河野さんが残した童話、家族が絵本に

日本人で初めて単独徒歩での北極点到達を1997年に成功させ、2001年に北極海で遭難死した臍出身の河野兵市さん(当時43)。生前、河野さんは家族に一つの童話を残していた。没後20年を経て、その童話をもとにした絵本を作り、河野さんの故郷・伊方町の学校などに贈る計画が進んでいる。

童話は、河野さんが1988年に48日間かけて宗谷岬から鹿児島県まで徒歩縦断した際に思い付いたという。河野さんは帰った直後、「文章にしてくれないか」と妻順子さん(64)に相談した。順子さんは「引退するときに来たら、描いてあげる」と約束し、メモを残していた。

今回の絵本は、このメモをもとに長男の遼兵さん(28)が昨年夏から編集。順子さんが絵を描き、ほぼ完成した。タイトルは「おうちへ帰ろう」とした。

物語は、旅を続ける「ぼく」が主人公だ。一風変わった人や動物と出会うが、彼らは世の中のペースについていくのに必死で、自分の変化に気づいていなかった。「ぼく」と一緒に歩く中で、彼らは少しずつ自分を取り戻していく。

河野さんの死亡当時、遼兵さんは小学2年生だった。旅で家を空けることが多かった

た河野さんは、単身赴任のような生活だったが、帰宅時は遼兵さんと風呂と一緒に入り、寝る前にトランプを楽しんだ。遼兵さんは「社会人3年目の今、やりたいことを実現するため、失敗しても真つすぐに進んだ父の生き方がかっこいいと思えるようになった」と言う。

「父は自分のペースで歩くことにこだわり、生きることも同じだと考えていた」と振り返る遼兵さん。今回の絵本について、「世の中は移り変わりが速く、自分を見失わない父の生き方が大切に思える。絵本にはそんなメッセージを込め、愛媛の子どもたちにまず伝えたい」と話す。

絵本は1500部を印刷し、700部を伊方町の小中学校などに寄贈する計画だ。費用は250万円を見込んでおり、遼兵さんらがインターネットのクラウドファンディング(CF)サイトで、今月末まで支援金を募っている。

CFのサイト(<https://camp-fire.jp/projects/view/539051>)では今月1日から受け付けを始め、当初の目標だった100万円を達成。次の目標として150万円を目指している。リターンとして絵本などを用意している。絵本は非売品。

(亀岡龍太)